５－４　業界の将来を担う若手の主体的活動

5-4-1 「業界展望を考える若手の会」の設立経緯

「業界の将来を考えているのは経営幹部ばかりだった。しかし、業界の将来を担うべき存在は誰なのか。我々若手世代ではないか。であれば、若手自らが業界の現状を憂い、明るい未来を描き、実現に向けて今から行動すべきでないか。」

そうした問題認識を持った若手が協会に嘆願し設立された若手組織が、「業界展望を考える若手の会（設立：2015 年 4 月、新体制：2025 年 6 月）」（以下「本部若手の会」という。）である。

【ミッション】若手の力で業界活性化の一大ムーブメントを興す

5-4-2 本部若手の会の活動紹介

本部若手の会では、アンケート調査、各種イベント（業界内のみならず、異業種企業とも連携）の開催等を通じて、協会に提案や要望を行っている。また SNS 等（X（旧 Twitter）、ポッドキャスト（Apple podcast、Spotify）、YouTube、Facebook、note、Instagram）の広報活動に加え、業界関係紙等にも掲載されている。

③広報活動

○各種 SNS による情報発信

X（旧 Twitter）　：「建コン本部若手の会」。活動情報を随時配信中。
ポッドキャスト（Spotify 等）：「建コンれいでぃお」。建コンの若手の思いを配信中。
YouTube　：「建コン本部若手の会（公式）」
note　：「建コンまがじん」
Instagram　：「土木の世界/World of Doboku」

○動画コンテストへの応募

「NPO 法人 あすの夢土木」主催の「今、バズる土木動画コンテスト」に動画タイトル「もしも土木がなかったら」で動画を応募し、最優秀賞を受賞。

5-4-3 若手世代が感じる業界のやりがい・魅力と課題

（1）建設コンサルタント業界で働く若手のやりがいと課題

2022 年 11 月に本部若手の会が、中国支部若手の会と協働で開催した「建コン若手の会 Assemble the WAKATE（中国支部交流会）」では、建設コンサルタント業界で働く若手が感じているやりがいと課題について議論した。議論で挙げられた「業界全体に共通するやりがいと課題」の一部を以下に紹介する。

●若手が思う業界全体に共通するやりがい

①カタチが残る（自身のアイデアが実現できる、地図に残る）
②世の中のためになる仕事で稼げる（稼いだお金に胸を張れる）
③社会の課題を解決できる（課題解決のストーリーを作ることができる）
④仕事がなくなることがない（社会課題を解決するためニーズが高い）
⑤社会・地域・地元・人の役に立てる（地元に恩返しができる、日本各地の力になれる）

⑥人との交流が楽しめる（発注者・施工者・住民等など色々な人と交流することができる）

●若手が思う業界全体に共通する課題

①モチベーションの維持（直接感謝される機会は少ない）

②長時間労働（残業時間はまだ多い、目の前の業務に忙殺されることがある）

③新技術（DX）に積極的ではない（紙、書類が多い、導入に時間を要する）

④自己実現（働く時間も限られる中、目の前の仕事に忙殺されてやりたい仕事ができない）

⑤キャリアチェンジが難しい（同じ職務が続くケースがある、職位があがると手を動かす機会が減る）

⑥一人前になるまで時間がかかる（技術者として自立できるまでに時間がかかる）

（２）建設コンサルタントの魅力

2023 年 7 月に本部若手の会が、近畿支部魅力発信委員会と協働で開催した「建コン WillSummit2023@近畿（全国支部合同若手交流会）」では、建設コンサルタント業界で働く若手が感じている魅力をシェアし合い、再認した上で魅力の発信に関する議論を行った。若手同士で魅力をシェアし合った結果、若手が感じている魅力は、「人（直属の上司や同僚、仕事を通じて出会う人）」「所属企業」「仕事を通じて出会う場所」「仕事そのもの」「社会的影響力（スケールやインパクト）」「お礼の言葉や評価」及び「自身や後輩の成長」など千差万別であった。魅力のシェアの中で挙げられた若手が感じている魅力の一部を以下に紹介する。また、ディスカッションの概要（魅力と届けたい相手）を**図 5-4-1** に示す。

＜人（上司）の魅力＞

・困難な課題に対して、平然と説明し、客先を納得させる上司

・土日は休み、家族イベントを優先しながら業務をしっかりこなす上司

・客先が求めていることを言語化することがうまい上司

＜仕事そのもの＞

・チームで成果品を着々と形にしていく過程の喜び

・プロポーザルや総合評価における技術提案で受注につながった瞬間

・業務分野が多く、行政やゼネコンではできない面白さ（チームワーク）

・地元に貢献する仕事をしている時

・大学や研究機関と共同研究ができること

・全国を飛び回り様々な土地との出会い

・所属企業で誰も為し得なかったことを達成

＜社会的影響力、スケールの大きさ＞

・災害時など困っている住民や客先への対応時、自身が設計した構造が機能し災害を防いだ時に誇りを感じる

・数万部印刷された業務成果を見た時の達成感

・自身の業務がメディア（新聞、ニュース等）に取り上げられた時

・大規模な構造物（橋やトンネル等）や計画がカタチになった時、地図に記載された時の感動

5-4-4 若手世代のアクション

本部若手の会は、上記のような課題意識を共有するとともに、「主体的なアクションでワクワクを伝播させていく」をスローガンに、業界をアップデート（最新のものに更新）するためのアクションを積極的に展開している。

（１）建コン業界のビッグピクチャーを描く

2024 年 11 月に本部若手の会が開催した「建コン WillSummit2024@東京（全国支部合同若手交流会）」では、「若手の会の 10 年を振り返り、今後の建コン業界のビッグピクチャーを描く」をテーマにディスカッションを行った。建コンのビックピクチャーを描くためのヒントを得るため國學院大學経済学部の手塚貞治教授をお招きし、「未来を考えるシナリオプランニング」と題して、シナリオプランニング（将来起こり得る環境変化について複数のシナリオを用意し、それに対する複数の戦略代替案を検討する手法）についての講義を実施いただき、学術的なアプローチから建設コンサルタント業界の未来について考えた。

（２）業界で働く若手の思いを伝える活動

2025 年 10 月に「建設技術展 2025 近畿」で開催された「今、バズる土木動画コンテスト発表会・表彰式～土木の魅力を発信～」に、動画タイトル「もしも土木がなかったら」を応募し、応募総数 22 作品の中から最優秀賞を受賞した。

同コンテストは「土木の魅力を伝えよう」を動画テーマとして、社会インフラの重要性や土木の魅力を広く発信するためのものである。本部若手の会では「もしも土木がなかったら」というテーマをもとに、「もし、橋がなかったら」「もし、みなとがなかったら」「もし、堤防がなかったら」「もし、道路がなかったら」などを身近な構造物等なかった場合の世界を題材にした動画を作成した。

動画を通して、建設コンサルタントが携わっている『土木』が身近にあり、多くの方の生活を支えていること、それがもしなかったら生活はどうなるのかということをコミカルに分かりやすく表現した。

図 5-4-4　「もしも土木がなかったら」動画抜粋

建設コンサルタンツ協会北海道支部　若手の会について

■平成30年1月設立、現在委員15名で活動

■主な活動内容
- 若手の立場から業界の課題について議論し、解決に向けた検討・提案を行う
- 北海道支部各社の若手社員との交流を図る
- 北海道支部の他委員会とも連携を図り、支部が実施する行事やイベントに積極的に関わる

年度	主な活動
H29年度	北海道支部　若手の会設立（H30.1月）
H30年度	Facebookページ開設、若手技術者交流会の開催（1月）
R元年度	建設コンサルタンツ協会支部50周年記念誌　座談会の開催（5月） 50周年記念「お仕事体験イベント」の運営協力（7月）
R2年度	新型コロナウイルス感染症の影響により活動休止状態
R3年度	
R4年度	「ポストコロナに向けたテレワーク実態調査」の実施（9月） 北海道開発局若手職員との意見交換会の開催（12月）
R5年度	建設コンサルタンツ協会北海道支部主催のシンポジウムにて若手の会として発表（2月）
R6年度	若手技術者交流会の実施（11月）【建設コンサルタント業界の魅力アップに関するワークショップ】
R7年度	若手技術者交流会の実施（11月）【業界の魅力発掘・共有と魅力発信に関するワークショップ】

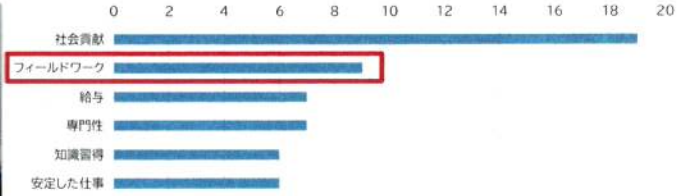
構成委員（計15名）	所属企業　※順不同
代表	(株)ドーコン
副代表	(株)開発工営社
委員	(株)エーティック
	日本データーサービス(株)
	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	(株)長大
	中央コンサルタンツ(株)
	パシフィックコンサルタンツ(株)
	(株)開発調査研究所
	日本工営(株)
	(株)建設技術研究所
	(株)シビテック
	(株)構研エンジニアリング
	明治コンサルタント(株)
	(株)建設環境研究所

【R6年度活動】若手技術者交流会

■開催日時：令和6年11月15日（金）
■参加者：36名（一般参加者：25名、委員：11名）
■交流会テーマ：建設コンサルタント業界の魅力アップに向けて

■交流会の様子

■業界の魅力



■業界の課題

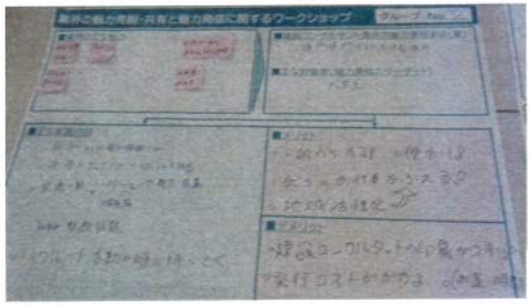
【R7年度活動】若手技術者交流会

■開催日時：令和7年11月14日（金）
■参加者：39名（一般参加者：27名、委員：12名）
■交流会テーマ：業界の魅力発掘・共有と魅力発信について

■交流会の様子

■業界の魅力発信方法（案）

・ガイド本の発行
→出張の多い業界だからこそ道内各地でおすすめの飲食店やホテルなどの情報が豊富であると考える。



東北支部若手の会　活動紹介

1）整備局若手職員交流会の開催

建設コンサルタント業界の枠にとどまらず、東北地方のさらなる発展に向け、立場の異なる若手同士の交流を通じて、建設業界及び東北地方の抱える課題を解決していくことを目的に実施した。

写真 1　整備局若手職員交流会の集合写真

【開催日時】2025 年 11 月 28 日（金）
【参 加 者】東北地方整備局 若手職員（9 名）、東北支部若手の会（13 名）　計 22 名
【テ ー マ】① 業界に入った時の思いと現在
② IT とどう付き合っていくのか～不要な仕事にならないために～

2）若手技術者交流会の開催

地域の特徴を踏まえ、東北地方の建コン業界の未来への課題解決を目的に、東北全県（6 県）の若手技術者を対象とした「東北全県交流会」を開催した。

写真 2　東北全県交流会の集合写真

【開催日時】2025 年 10 月 9 日（木）～10 日（金）
【参 加 者】東北 6 県の若手技術者（21 名）、東北支部若手の会（20 名）　計 41 名
【テ ー マ】「東北の建コン業界の未来を創る！～2050 年への提言～」

3）土木系学生との交流会

建設コンサルタントの仕事や魅力等を学生に伝え、業界の認知度の向上や、働くことに対する不安、就職活動への不安等を解消するため、学生がカジュアルに参加できる座談会を開催した。

写真 3　座談会の集合写真

【開催日時】2025 年 7 月 11 日（金）
【参 加 者】日本大学土木工学科学生 学士 1 年生～修士 1 年生（21 名）
東北支部若手の会（16 名）　計 37 名
【実施概要】建コン紹介動画による建コン業界の紹介（10 分）、座談・交流（50 分）

4）建設コンサルタント PR 活動

建コンの魅力発信として、下記の活動を実施した。

- SNS（Facebook・X・Instagram・YouTube）、建コン紹介動画で業界 PR 発信
- 大学オープンキャンパスへの参加
- EE 東北 26 でのブース展開
- 地域貢献として『みやぎ元気まつり』でのブース展開（**写真 4**）

写真 4　みやぎ元気まつりの展示状況

建設コンサルタンツ協会 関東支部

若手の会 WG 活動紹介

若手※けんざか議員
意見交換会資料

若手の会 WG とは

建設コンサルタント業界の将来像と現状の諸問題を考え、協会の立場から「若手の力でできること」を検討し、実施していく WG です。

委員	活動	体制
21 名	月 1 回	4 グループ

建設コンサルタンツ協会関東支部の技術委員会と呼ばれる組織の中に位置づけられ、会内では議論、グループ別活動、対外イベント参加等の活動を行っています。

若手の会 WG 委員全体写真

4 グループの活動概要

イベント企画 G

業界" 外" に対する建設コンサルタントの認知度向上を目的に、対外イベントの立案・計画を行います。R8 年度は、高専生からの認知度向上を目的に、来年度の「高専生との意見交換会」実施に向けた調整を進めています。

関東地整対応 G

関東地方整備局の若手職員と建設コンサルタンツ協会関東支部に所属する若手技術者との交流会を企画・運営します。テーマ案の検討、事前協議資料の作成、当日の運営、実施報告書作成を行います。

広報 G

建設コンサルタント業界および若手の会 WG の活動を分かりやすく伝えるため、対外イベント広報用フライヤー、協会内向け PR 用フライヤー、新入社員研修資料の更新・発表を行います。

→来年度以降の公開を目標に進めています！

実態調査 G

業界" 内" にフォーカスし、アンケート調査結果や WS 結果の分析・考察を行います。結果から把握した課題について解決案を検討し、協会内向けの報告書の作成や、必要なワークショップ等の企画・立案につなげます。

主な活動事例

関東地整対応 G

関東地整× 建コン 若手技術者交流会をこれまでに計 2 回開催しました。R6 は「受発注者がお互いに求めていること」「業界の活性化」、R7 は「業界に対する想い」「理想の働き方」をテーマに交流会を実施。

若手技術者交流会の様子

交流会で見えた主な論点

- 受発注者間では、コミュニケーション不足・情報共有・工程管理が共通課題。
- 業界活性化では、業界イメージ改善、PR、技術向上、若手・中間層の確保が論点。
- R7 の匿名アンケートでは、仕事の楽しさだけでなく、残業・待遇・将来像への不安や転職意向が率直に共有された。

実態調査 G

業界内の実態把握を目的に、アンケート調査結果を分析し、働き方・世代間ギャップ・コミュニケーション等の課題整理を進めます。

■アンケート調査概要

回答数	調査期間
1,571 件	R7.7.14～7.31

結果概要

- 20～40 代は「現在の会社にいる予定」が約半数にとどまり、50 代以上の約 70％と比べて定着意向に差がみられる。
- 転職先は同業他社が最も多い一方、発注者や他業界を考える回答もあり、キャリア選択は広がっている。
- 転職を考えるきっかけは、勤務時間、給与・福利厚生、将来への不安、自己成長など。若手の定着には、働き方・待遇・成長実感をあわせて整える必要がある。
- 他にも色々なアンケートを実施した。

⇒今年度の活動では、アンケートで得た結果に対してクロス集計をかけ、結果の深堀りを行っていきます。

■近畿支部　魅力発信委員会の活動紹介

1．メンバー構成

近畿圏内の建設コンサルタント会社に所属する 24 名が 4 つのワーキンググループ（学校訪問 WG、出前講座 WG、若手企画 WG、橋の魅力発信 WG）に分かれて活動しています。

2．活動内容

1）大学・高等専門学校での業界説明会の開催（学校訪問 WG）

関西大学、近畿大学、明石高専、舞鶴高専等の大学や高等専門学校において、建設コンサルタントの概要説明、キャリアパスの紹介、若手技術者の体験談紹介等の講義を実施し、建設コンサルタントの魅力を紹介しています。

講義前後にアンケート調査を実施していますが、この活動を通して建設コンサルタント業界のイメージアップにつながっていることを確認しています。

写真　学校訪問の様子

2）地域イベントでの子ども達への講座の実施（出前講座 WG）

自治体が「各自が持っている知識や経験を出し合い、先生・生徒として、自身の得意なことを教え、学び合う」ことを目的に開催しているイベントに先生として参加しています。

サーモグラフィーを用いた体験講座、防災カードゲームを用いて災害に備える知識を学ぶ講座等を行いながら、建設コンサルタント業界と人々の生活との関わりや職業としての魅力を子ども達やその親御さんに伝えています。

写真　出前講座の様子

3）川柳コンテストや SNS マンガの配信（若手企画 WG）

業界の魅力発信を目的に、協会所属企業の社員を対象とした「建コン川柳コンテスト」を開催しています。「業界のあるある」や「魅力発信」をテーマに川柳を応募してもらい、投票により優秀作品を選定しています。

また、応募作品を題材とした 4 コママンガをイラストレーターへ依頼して製作し、月に 2 回の頻度で X（旧 Twitter）にて配信し、業界の認知度向上を目指しています。

図　SNS マンガ

4）橋の魅力発信を目的とした PR 活動（橋の魅力発信 WG）

2016 年に（一社）日本橋梁建設協会近畿事務所、（一社）プレストレストコンクリート建設業協会関西支部とともに発足した「橋の魅力発信プロジェクト」の PR 活動として、インスタグラムで週 1 回の頻度で橋に関する投稿を実施しています。

また、著名なイラストレーター、インフルエンサー等の方々とコラボしながら、動画配信、グッズ製作等を行っています。

図　イラストレーター作品